

Volume.034

徳山大学校友会誌



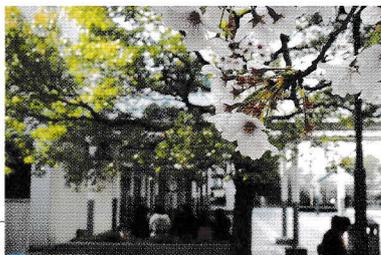
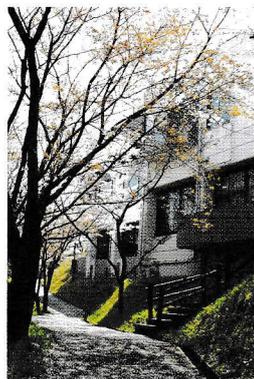
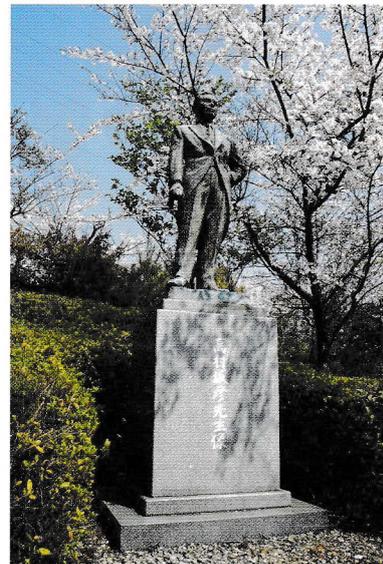
とくだい

発行所
徳山大学校友会

〒745-8566
山口県周南市学園台 徳山大学内
TEL&FAX 0834 (28) 7454

発行日
平成22年3月25日

発行責任者 國廣 憲
編集責任者 瀬川 昌文



徳山大学キャンパス春 2009年4月：撮影 中村道陽

平成二十一年度 評議員会開催



平成21年度評議員会が6月27日周南市ホテルサンルート徳山で開催されました。まず、國廣会長より、「母校もなかなか難しい局面を迎えていますが、皆さまのお知恵をお借りして、いい方向に向かうよう、努力して行きましよう」と、挨拶があったのち、議事に入りました。まず、20年度の事業及び決算報告、続いて、21年度活動方針・事業計画並びに予算案について審議されました。最後に、本年は評議員・役員の変更の年にあたり、新しい役員・評議員が、選出されました。このあと、大学の近況について徳山教育財団蔵田法人本部長より、ご説明いただきました。引き続き行われた、懇談会では大学から教職員の方、また学生をゲストに迎えて、楽しいひとときを送りました。（※なお予算・決算ならびに役員・評議員については、校友会ホームページに掲載しております。）



北野大さん講演会開催される



平成20年度行事として、明治大学教授北野大さんの講演会が平成21年3月14日周南市文化会館で開催され、約1200名の聴衆が詰めかけました。この講演会は地域文化向上に貢献することを目的として、周南市文化振興財団と徳山大学校友会（卒業生の会）徳山大学後援会（保護者会）が連携を取りながら毎年行われています。数々のエピソードを交えながら、演題の「やりたかった2番目のことを大切に」というテーマに沿って、母親がどう自分を育ててくれたかという話を中心に、会場とやり取りを行いながら、和やかに進められました。テレビ同様の変わらない優しい笑顔で、会場は温かな空気に包まれました。

なお、今年度は平成22年3月21日に同じく、周南市文化会館において明治大学文学部教授齊藤孝さんをお迎えして、講演会が開かれました。来年度以降は、文化講演会とまた違った形での地域文化活動が検討されています。

〔論説〕

「人口減少化による地域社会の変容」と
急がれる大学の対応・・・

校友会副会長 廣瀬 孝夫

厚生労働省国立社会保障・人口問題研究所は5年ぶりの人口推計の見直しを行い、総人口は二〇〇五～六年の一億二七〇〇万人強をピークに減少過程にあり、二〇四六年には一億人を切るといわれています。人口問題は、大学も企業も楽観論では、今後太刀打ちできない状況にある事は、言うまでもありません。

今後、大学は「人口減少化」と「経済の低迷」と相俟って、ますます厳しい経営を強いられると思われる。現状のままでは推移すると、近い将来には、第二段の「大学破綻の連鎖」が生じる可能性をも秘めています。地方大学は、人口減少化に伴う地域社会の変容を見据えて、「学生受入態勢」「学部・学科の選択」「スリム化体制の推進」「海外施策と対応」「地方都市の変容と大学の対応」など課題は多く、その対応が急務と思われまます。

人口減少化による地域社会の変容

都市経済と地方経済の関係では、生産年齢人口の多い都市部に著しい人口減少が見られ、地方型の経済が拡大すると言説があります。理由については、松谷昭彦著書の【人口減少経済の公式二〇〇四】では、「働ける年齢人口の多い都市部では、若い労働力を得ることが出来ず、工場等は縮小していく。これにより都市部の労働生産性の低下が生じて賃金も低下し、所得の

減少にともなって都市住民の生活レベルも下がってしまふ。」また、「この様に、都市圏の賃金が低下すれば、都市圏の魅力も低下するので、地方から都市への若年層の人口流出が止まる可能性がある。それにつれて、地方経済の拡大や、地域間経済力格差の縮小がもたらされる可能性がある」と、言う訳です。

これに伴い地方大学は、学生の希望する条件が満たされている事や地場企業との連携が定着している等、環境が整っていれば、入学志願者が定着（増加？）する、チャンスがあると思われれます。

急がれる大学の対応

(一) 地方型社会に因應する大学

このように、地方型経済社会が相対的に向上する可能性があるとは言え、人口減少化にあり、直ちに地方大学が発展するとは言いがたいですが、可能性を生かすために、「学生のニーズに因應される学内体制の充実」を図る必要があります。また、「地域の企業および社会保障を担当する官庁などの連携」は必要不可欠になると思われます。

特に、大学の施策としては、「地域企業の講師の導入」「地域連携共同研究」「介護・福祉と地域社会保障との連携」は急務と思われれます。

(二) 海外（留学生）募集と学内支援体制の強化

総人口の減少は内需拡大が見込まれず、企業が躍起になり海外に展開しているように、大学も海外から学生を求めざるを得ない状況であります。各国の留学生公募拠点の拡充および体制の整備は重要な課題でしょ

う。更に大切なことは、留学生の支援体制です。留学生は「言語」「法律」「文化」等が異なる生活環境で生活することになります。

大学は、「留学生研修所（仮）」を設立して、日本語教育、日本文化（価値観）教育、リーガル教育をはじめ、住居の斡旋、生活必需品の斡旋など幅広く留学生の生活支援を行なう学内支援体制の強化が肝要といえます。

(三) 学問チャンネルの多様化

しかし、留学生の招聘をすれば良いという事ではありません。如何に国内の学生を増やして行くかが最重要課題といえます。

現在の福祉情報学部の低迷は著しい状況です。学部を増設するのは、許認可等の問題で容易ではないと思われれますが、学科やコースを駆使して学生のニーズに因應する「学問チャンネル」の多様化が望まれています。言葉を変えると、「資格とプロ化」の育成に答える大学と言っても過言ではありません。

同時に、総人口の増加が止まり、経済の停滞期に入ると、物的制約が非常に高まるので、人々は精神的欲望で満足度を高めようとする。つまり、『文化的な発展に向かうことになる。今後の日本においては、『情報的、あるいは文化的な付加価値』を高めて行かざるを得ない』（古田隆彦 人口波動から見た二十一世紀1996）。これを大学に当て嵌めると、大学は学生に対して、単なる講義提供を超える付加価値（資格取得・実践英会話・各種学内サービス等）を提供していくことが求められていくと思われれます。

これも大学の存在意義を高める重要なファクターだと思います。

(四) 奨学金基金の充実

経済の低迷やデフレ・スパイラルにより所得の減少が生じますと、一般的に生活が苦しくなります。

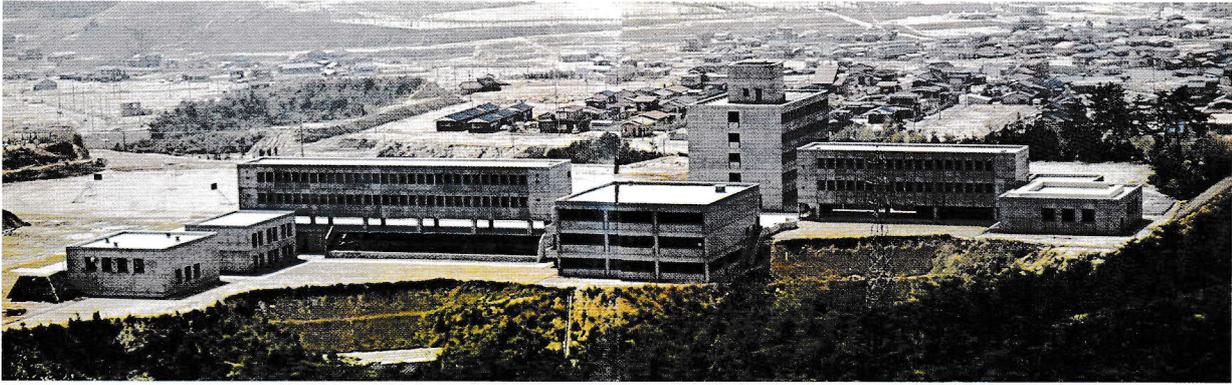
子供に「仕送りが出来ない」「私学に行けない」「学費が払えない」という家庭が多くなる可能性が高まります。大学は、本学で学問を学びたい学生や自己の成長を図りたい学生に対し、学費の心配をせずに学べる環境の整備が必要となります。

多種の奨学金制度及び基金の設立は、本学が存続していくための必須科目と言えます。

問われる「インターナル・ブランディング」

本文の最後に切望することがあります。それは「ブランディング」で大学を柔軟に改革して行くという事です。ご案内のとおり「ブランディング」とは「ブランドを確立しつつ、維持、管理していくこと」を言いますが、昨今では、「インターナル・ブランディング」として「全関係者の自発性」を問う言葉として使われています。徳山大学は良くも悪しきもブランドとして生き付いています。記述のとおり厳しい環境下において、更に発展、改革を進めるには、大学関係者（教職員の方々）は勿論のこと、校友会（卒業生）も含め、全ての方々が自発的に意見交換や迅速な行動を伴わなければなりません。言葉を変えれば、卒業生一人ひとり意識を高め、徳山大学というブランドの確立に寄与しなければならぬと強く感じています。

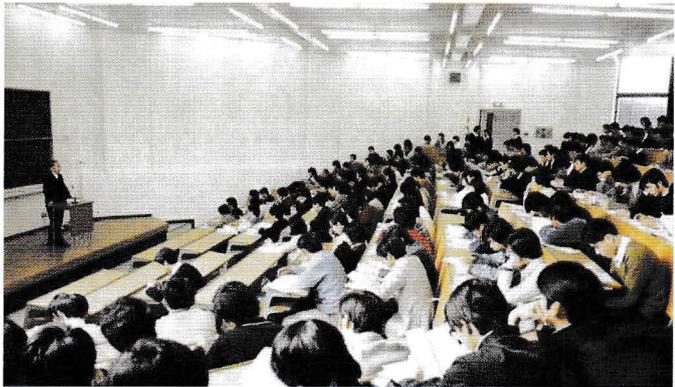
懐かしのキャンパス
昭和46年・47年ごろの草創期のキャンパス



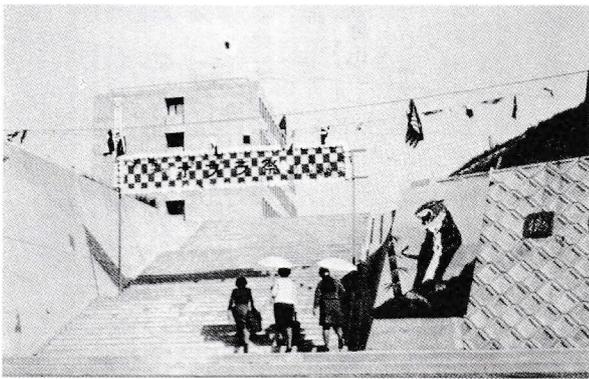
キャンパス全景 中央が学生食堂のある4号館その奥が本館 周南団地もこれから開発される様子がうかがえます



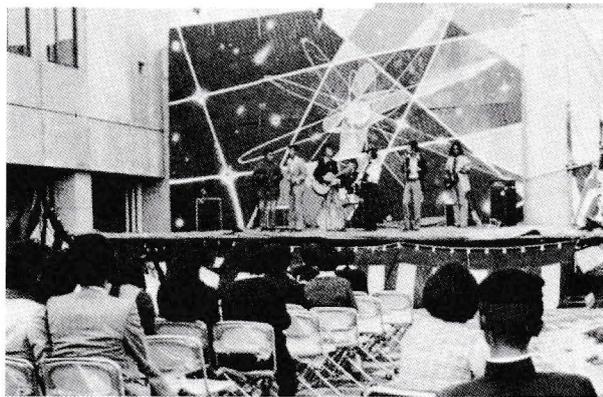
昭和46年創立時の本館周辺
造成された土地に建物だけがありました



3号館(大教室)でのガダンスの様子



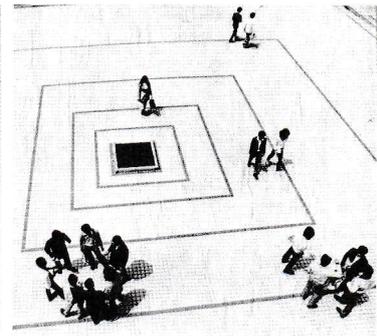
第1回大学祭ゲート 現在階段はなく、スロープになっています(奥手に見えるのは本館)



大学祭の特設ステージ(1号館前)現在はこの位置に
運動具塚があり、けやき並木となっています



同じく大学祭 学生食堂前の様子



学生食堂前(本館前)広場

《寄稿》

魅力ある学校教育を目指して

— 休眠打破 —

大原 信男

(経済学部11期卒・高知県在住)

高知県立伊野商業高等学校教諭

長かった冬も終わり今年も「春」がやってきました。早いもので、大学を卒業してからもう25回以上も桜の季節を迎えたこととなります。もうすぐ日本各地から桜の便りが聞かれます。

この25年の間に私たちが、私たちの暮らし、生活環境などは大きく変貌を遂げました。バブル期の崩壊、少子高齢化に伴う産業構造の変化、長引く不況による失業問題など、今、日本を含め世界が大きく変わろうとしている時なのかもしれません。

しかし、いくら時代が変わって、人の心が変わろうとも、自然の大きな流れは変わることなく繰り返されていきます。今年は、平年よりもかなり早めの桜の開花予想が新聞紙上を賑わしています。

しかし、桜の開花には高い気温だけでなく、一定期間寒い日がないと一旦休眠状態になった桜は開花を迎えないらしい。これを「休眠打破」(ヒートショック)と申します。つまり、ちゃんと季節の節目が無いと次の季節を迎えられないということです。

さて、この25年は本当に早く感じました。振り返ってみても何も覚えていないくらい、がむしやりに走ってきた25年だったような気がします。しかし、それはある意味「素晴らしい人生」を歩んでいるという事だと自分なりに理解しています。大学を卒業後、教職を志し、今は地元で商業の教師として教壇に立っています。昨年までは教育委員会で指導主事の職をいたすこともできました。今は、高知県の商業教育の発展に何ができるのかと、毎日が挑戦の日々を送っています。そういう人生を送れているのも、わが母校、徳山大学の存在があるからだと言うことは言うまでもないことです。

大学時代の4年間は本当にいろいろな事を「学んだ」期間でした。あれから25年。時代は移り変わり、教育や大学を取り巻く環境も大きく変わりました。本県でも多くの学校は淘汰され、公立高校も今や「生き残り」をかけた戦いが続いています。これは、県内の大学でも同じ事で、昨年まで生徒募集に苦慮していた「高知工科大学」も公立大学に「変化」することで、大きな変革期を迎えることとなりました。

これだけ変化の激しい時代の中であって、ものの価値観や、考え方が変化し、たとえ朝令暮改となっても何もおかしいことはありません。むしろ「変化し続ける」ことの方が大切ではないかと考えることの方が多くなってきました。

いずれにしても、高校教育、大学教育を含め「教育」が非常に大きな変化の時代に突入していることには間違いありません。「今まで通り」ということは無いと思わなければならない時代なのかもしれません。なぜなら、私たちの周りは目まぐるしく変化を続けているんです。時代は「日進月歩」など言う悠長な時代ではなく「分進秒歩」の速度で変化を続けています。私たちも、学校も時代の変化に合わせて「進化」し続けていくことは自然なことなのではないかと思われれます。

いや、未来の「商人」を育成している私たちは、今の時代に生きていくだけではなく、時代の先を読む新しい発想力、何にでも挑戦できる柔軟な心、いろいろな情報に対して敏感に反応できるフットワークの良さを常に持ちつつ、目の前の子ども達に常に「新鮮」な話題を提供し、未来を語り、夢を創造できなければならぬとも思えるようになりました。

「休眠打破」をするための条件は整いすぎています。わが母校も、今は環境としては非常に厳しい状況かも知れません。しかし、その「ピンチ」を「チャンス」に変えていけるのも今しかないのではないだろうかと考えます。

長かった「休眠」の時代に終わりを告げて、これから徳山大学の魅力が再認識され、徳山大学らしい変化をしなければならぬ「開花」の時期を迎えているのではないだろうかと思えます。

とくだいインフォメーション

—徳山大学の今の情報をお伝えします—

杉光英俊学長 退任



平成13年4月より徳山大学学長を務めてこられた、杉光英俊先生が、任期満了に伴い、本年3月をもって退任されることとなりました。杉光先生は、

平成3年徳山大学に教授として着任。平成13年に学長に就任以来、平成15年4月に福祉情報学部開設、平成17年1月に徳山工業高等学校と協力に関する基本協定調印、同年4月には、経営学科をビジネス戦略学科に改編、さらに翌年4月にはビジネス戦略学科スポーツマネジメントコースに保健体育教職課程を設置されるなど、大学改革に積極的に取り組んでこられ、校友会活動にも深い理解をいただきました。なお後任には、岡野啓介経済学部長（平成22年2月22日に開催された理事会において）が選出されました。岡野先生の任期は平成22年4月1日より4年です。



創立30周年祝賀会にて 記念講演された柔道家の山下さんを囲んで

<平成14年2月>

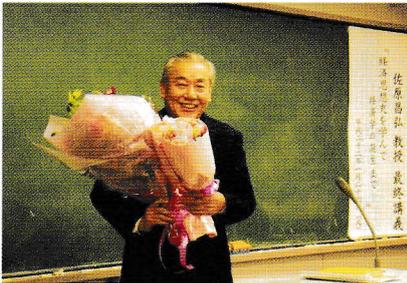
左から学長、山下泰裕さん、
國廣会長、吉岡剛先生。

佐原昌弘教授・山岸憲治教授 退任

佐原先生山岸先生が定年退職を迎えられました。

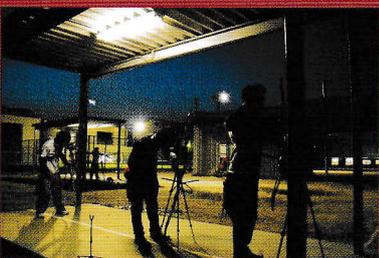
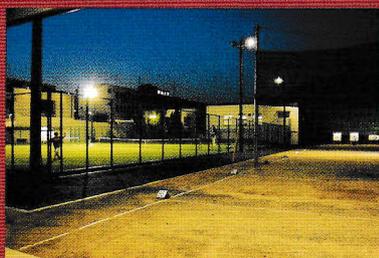
佐原先生は、昭和46年の本学の創立以来ご指導いただきました。先生は、理事・評議員・学生部長・図書館長などを歴任され、また柔道部や陸上競技部の部長としても学生と親しく指導にあたられました。校友会では、顧問として永くご助言いただいています。最終講義の経済学史では、「歴史に学ぶことの大切さを学んだ」と締めくくられました。

山岸先生は、昭和51年に着任され、当時の先端をゆく電子計算機室の運営委員として情報教育の推進に努められました。その後、理事・評議員・学生支援センター長など歴任されました。最終講義では、ノーベル賞受賞論文に先生の論文が引用されたエピソードなど交え、徳山大学における情報教育の発展についてお話をされました。先生方の今後の、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。



アーチエリー練習場&テニスコート完成

アーチエリーの練習場とテニスコートの人工芝コートが昨年4月完成しました。アーチエリーは50M・60M・70Mの各距離から、撃つことができるようになっていきます。またテニスコートは、これまで土のコートでしたが、今回2面の人工芝のコートにリニューアルされました。両方とも夜間照明も設置され、学生からも「充実した練習ができます」と弾んだ声が上がっていました。テニス部に所属していた方からは夢のような話ですね。



硬式野球部春・秋全国大会連続出場

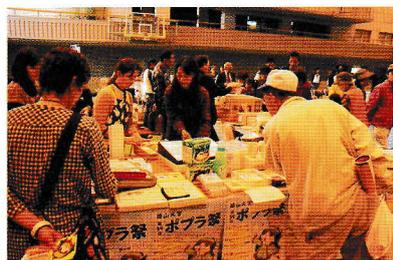
今年度硬式野球部は、春のリーグで優勝し、全国大会へ、また秋のリーグでも優勝し、広島6大学の広島大学、四国リーグの四国学院大学との代表決定戦も勝ち抜き、明治神宮大会へ出場しました。春・秋とも全国での結果は惜しくも1回戦敗退でしたが、投手・野手とも3年生が主体のチームであり、選手には今回の大会での経験を糧として、来年度以降の活躍に期待したいと思います。また、春・秋ともに関東支部や野球部出身の卒業生の方も多く応援に詰めかけ、試合を盛り上げて下さいました。校友会ではホームページで各クラブの試合の開催予定などお伝えしますのでご覧いただき、大会へお出かけいただければと思います。



上 東京ドーム
下 神宮球場にて

第39回ポプラ祭は卒業生も大活躍

今年度のポプラ祭は、大学及び大学祭実行委員会からの強い要望により、校友会が大学祭の1日目を企画運営することとなりました。11月7日、行われた校友会プロデュースの1日目は、しゅうなんFMの生中継生放送、特撰品バザー・野菜市、ふく汁の販売など記念館をメイン会場として行われ、卒業生の大学祭実行委員会メンバーによる懐かしのゲーム「ポプランピック09」や、フオークソングライブなどで、ステージを賑わしました。そして、何ととっても圧巻は、吹奏楽団OB・OGによる演奏でした。8月ごろからミーティングを重ねて、宮崎から福井までの全国のメンバーに譜面を送付し、皆さん手弁当で駆けつけ当日の午前中集中リハーサルを実施、見事に5曲の演奏を披露し、聴衆を魅了しました。この日のラストは校歌演奏そして、福引付き餅まきで、終了。久しぶりに学生時代にもどった1日でした。



ポプランピック09

元大祭メンバーによる進行に大いに盛り上がる

息の合った吹奏楽演奏、「これだけは今回は非実現したかった」と指揮の宮本佳典さん(23期卒・光市在住)の話された、細山田晃さん(22期卒・宮崎県在住・音楽講師)のアルトサックスの流麗なソロは、吹奏楽部の誇りそのものが表わされていました。

お便り紹介 一校友会にお寄せいただいたお便りをご紹介します— (順不同)**7期 周南市在住 手島 哲夫さん**

校友会誌はいつも読ませてもらっています。いつもは見たら終わりなのですが、今回はプレゼントの日本酒につられて、ついつい反応してしまいました。現在周南市の在学中と同じ所に住んでおります。大学前の坂道はときどき仕事に通りますが、中にはほとんど入ったことがありませんね。また、在学中ご縁はありませんでしたが、中谷先生の定年退職のことで時間経過と寂しさを感じました。ネガティブな事ばかり書きましたが、徳山大学が、いつまでも元気であるよう祈っております。

11期 高知県在住 上岡 信寛さん

2009年3月20号中谷孝久教授が退任ご退職され、聴講したゼミや先生のお人柄を思い起こしました。先生の写真から当時と少しもおかわりなくご講義のノートを見返して考えが沸き起こるのに、金利 GNP、産業連関経済統計経済研究と私の人生でも役立っています。私は校友会誌に私の知人が掲載されていたり、テレビなどマスコミでも名の知れた人があるのにビックリします。最近では周南市の特別天然鳥ナベツルの研究会が自分の住む街でもありまして、熊毛町八代ご出身の中光先生のお里の話と鳥が役立っています。

6期 防府市在住 平元 正紀さん

いつも楽しみに校友会誌をみています。毎年、昔有った放送部のメンバーでもう何十年も、小人数ですが、同窓会をやっています。大学のメンバーが一番のような気がします。これからもよろしくお願ひします。

11期 兵庫県在住 新田 智幸さん

いつも校友会誌を楽しみにしている 11 期生です。(ケチャップ缶の灰皿が食堂にあった世代です。) 一昨年仕事で山口県に行く機会があり、大学にも立ち寄りました。時間がなくキャンパスに入れませんでした。懐かしく嬉しかったです。下宿していた下松市にも足をのぼしましたが、余りの変貌ぶりに驚きました。当時アルバイトしていた自動車店にも顔をだし、20数年振りにお店の方と再会。楽しい宴を開いていただきました。また夜食には徳山駅前ラーメンも食べてきました。今年も仕事で行く予定ですが、今回はキャンパスにも入りたいと思います。

—ありがとうございました—

<プレゼントコーナー>~山口県名産品~

①

**① 特撰塩粒うに・・・3名様**

昨年度好評いただきました中屋うに本舗のうにです。

②

**② 白銀 (かまぼこ) 5本セット・・・3名様**

山口のお土産と言えこれという名産品です。

③

**③ 朝日屋熟成ベーコン・・・3名様**

テレビでもお馴染み下松市の朝日屋の逸品です。

プレゼント希望の方

希望商品、氏名、年齢、住所、電話番号、会誌へのご意見・ご感想をお書き添えの上、

郵送の場合

〒745-8566 山口県周南市学園台 徳山大学校友会

Eメール応募の場合

kouyukai@tokuyama-u.ac.jp

ご送付ください。

※ご意見・ご感想は、誌上・HP上で掲載されることがありますので、予めご了承ください。また、個人情報については、事務連絡のみに使用させていただきます。

編集後記・お礼

ご多用の中、寄稿頂きました、廣瀬様、大原様、ありがとうございました。皆様のご意見をお待ちしています。ホームページの情報もぜひご覧ください。

編集スタッフ 企画広報部主幹 瀬川昌文 (1期)

三嶋隆史 (3期) 中村道陽 (11期) 野村哲也 (20期)

藤田美恵 (事務局) 協力 徳山大学